

2022 年 度

シ ラ バ ス

作業療法学科 II部 3年

学校法人 福田学園

大阪リハビリテーション専門学校

OSAKA COLLEGE OF REHABILITATION

授業科目	一般臨床医学		担当者	大友 健治 他	
学科名	作業療法学科	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修
内 容	国家試験にこれまで出題された問題から、一般臨床医学を学ぶ。皮膚疾患・眼疾患・耳鼻咽喉科疾患・外科疾患など広く疾患について学ぶ。				
到達目標	国家試験の出題傾向を理解する。一般臨床医学の範囲で出題される国家試験問題を理解する。				
授業計画:					
第1回 オリエンテーション					
第2回 眼の構造					
第3回 国家試験に出題された眼疾患①					
第4回 国家試験に出題された眼疾患②					
第5回 皮膚の構造と感覚受容器					
第6回 国家試験に出題された皮膚疾患(熱傷を含む)①					
第7回 国家試験に出題された皮膚疾患(熱傷を含む)②					
第8回 耳の構造					
第9回 国家試験に出題された耳鼻咽喉科疾患①					
第10回 国家試験に出題された耳鼻咽喉科疾患②					
第11回 泌尿器の構造					
第12回 国家試験に出題された泌尿器疾患①					
第13回 老年期の身体構造					
第14回 国家試験に出題された老年期疾患①					
第15回 まとめ					
評価方法:					
国家試験の模擬試験を行いその結果60%以上取ったものを合格とする。無断欠席・遅刻は-5点とする。					
授業時間外の学習(予習・復習等)について					
各自, 国家試験の過去問を解いて, 課題を設定し, 予習を行うこと。					
教科書:					
書名					
著者名					
出版社					
参考図書:					
書名					
著者名					
出版社					
留意事項:					
本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する可能性がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。					

授業科目	作業療法管理学		担当者	松下 健史 他	
学科名	作業療法学科	学 年	3年	総単位数	2単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修
内 容	作業療法において必要な管理についての知識・技術を身に付ける。				
到達目標	作業療法管理について理解する。				
授業計画:					
第1回 作業療法とマネジメント					
第2回 組織の成り立ちとマネジメント					
第3回 情報のマネジメント					
第4回 医療サービスのマネジメント					
第5回 医療安全のマネジメント					
第6回 作業療法業務のマネジメント①					
第7回 作業療法業務のマネジメント②					
第8回 作業療法業務のマネジメント③					
第9回 作業療法の役割と職域					
第10回 作業療法士の職業倫理					
第11回 作業療法をとりまく諸制度					
第12回 作業療法臨床実習の理解と管理体制①					
第13回 作業療法臨床実習の理解と管理体制②					
第14回 作業療法士のキャリア開発					
第15回 まとめ					
評価方法:					
レポート100%					
授業時間外の学習(予習・復習等)について:					
参考資料を配布するので、整理しまとめるようにして下さい。					
教科書:					
書名					
著者名					
出版社					
参考図書:					
書名					
著者名					
出版社					
留意事項:					
<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する可能性がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。</p>					

授業科目	国試対策ゼミナール I		担当者	専任教員	
学科名	作業療法学科	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	生理学を中心とした国家試験の過去問を理解するため、過去の問題を検討し理解する。				
到達目標	国家試験の出題問題を理解する。				
授業計画:					
第1回 生理学を中心とした専門基礎科目の復習①					
第2回 生理学を中心とした専門基礎科目の復習②					
第3回 生理学を中心とした専門基礎科目の復習③					
第4回 国試問題の振り返り学習①					
第5回 国試問題の振り返り学習②					
第6回 国試問題の振り返り学習③					
第7回 国試問題の振り返り学習④					
第8回 国試問題の振り返り学習⑤					
第9回 国試問題の振り返り学習⑥					
第10回 国試問題の振り返り学習⑦					
第11回 国試問題の振り返り学習⑧					
第12回 国試問題の振り返り学習⑨					
第13回 国試問題の振り返り学習⑩					
第14回 国試問題の振り返り学習⑪					
第15回 国家試験模擬試験					
評価方法:					
国家試験の模擬試験を行いその結果60%以上取ったものを合格とする。無断欠席・遅刻は-5点とする。					
授業時間外の学習(予習・復習等)について:					
各自、国家試験の過去問を解いて、課題を設定し、予習を行うこと。					

授業科目	国試対策ゼミナール I		担当者	専任教員	
学科名	作業療法学科	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	生理学を中心とした国家試験の過去問を理解するため、過去の問題を検討し理解する。				
到達目標	国家試験の出題問題を理解する。				
教科書:					
	書名	PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学2021			
	著者名				
	出版社	医歯薬出版株式会社			
	書名	PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学2021			
	著者名				
	出版社	医歯薬出版株式会社			
	書名	PT/OT国家試験必修ポイント 基礎OT学2021			
	著者名				
	出版社	医歯薬出版株式会社			
	書名	PT/OT国家試験必修ポイント 障害別OT治療学2021			
	著者名				
	出版社	医歯薬出版株式会社			
	書名	国家試験対策コンテンツ			
	著者名				
	出版社	全国リハビリテーション教育協会			
参考図書:					
	書名				
	著者名				
	出版社				
留意事項:					
<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する可能性がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。</p>					

授業科目	国試対策ゼミナールⅡ		担当者	専任教員	
学科名	作業療法学科	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	解剖学を中心とした国家試験の過去問を理解するため、過去の問題を検討し理解する。				
到達目標	国家試験の出題問題を理解する。				
授業計画:					
第1回 解剖学を中心とした専門基礎科目の復習①					
第2回 解剖学を中心とした専門基礎科目の復習②					
第3回 解剖学を中心とした専門基礎科目の復習③					
第4回 国試問題の振り返り学習①					
第5回 国試問題の振り返り学習②					
第6回 国試問題の振り返り学習③					
第7回 国試問題の振り返り学習④					
第8回 国試問題の振り返り学習⑤					
第9回 国試問題の振り返り学習⑥					
第10回 国試問題の振り返り学習⑦					
第11回 国試問題の振り返り学習⑧					
第12回 国試問題の振り返り学習⑨					
第13回 国試問題の振り返り学習⑩					
第14回 国試問題の振り返り学習⑪					
第15回 国家試験模擬試験					
評価方法:					
国家試験の模擬試験を行いその結果60%以上取ったものを合格とする。無断欠席・遅刻は-5点とする。					
授業時間外の学習(予習・復習等)について:					
各自、国家試験の過去問を解いて、課題を設定し、予習を行うこと。					

授業科目	国試対策ゼミナールⅡ		担当者	専任教員	
学科名	作業療法学科	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	解剖学を中心とした国家試験の過去問を理解するため、過去の問題を検討し理解する。				
到達目標	国家試験の出題問題を理解する。				
教科書:					
	書名	PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学2021			
	著者名				
	出版社	医歯薬出版株式会社			
	書名	PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学2021			
	著者名				
	出版社	医歯薬出版株式会社			
	書名	PT/OT国家試験必修ポイント 基礎OT学2021			
	著者名				
	出版社	医歯薬出版株式会社			
	書名	PT/OT国家試験必修ポイント 障害別OT治療学2021			
	著者名				
	出版社	医歯薬出版株式会社			
参考図書:					
	書名				
	著者名				
	出版社				
留意事項:					
<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する可能性がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。</p>					

授業科目	国試対策ゼミナールⅢ		担当者	専任教員	
学科名	作業療法学科	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修
内 容	運動学を中心とした国家試験の過去問を理解するため、過去の問題を検討し理解する。				
到達目標	国家試験の出題問題を理解する。				
授業計画:					
第1回 運動学を中心とした専門基礎科目の復習①					
第2回 運動学を中心とした専門基礎科目の復習②					
第3回 運動学を中心とした専門基礎科目の復習③					
第4回 グループ学習①					
第5回 グループ学習②					
第6回 グループ学習③					
第7回 グループ学習④					
第8回 グループ学習⑤					
第9回 グループ学習⑥					
第10回 グループ学習⑦					
第11回 グループ学習⑧					
第12回 グループ学習⑨					
第13回 グループ学習⑩					
第14回 グループ学習⑪					
第15回 国家試験模擬試験					
評価方法:					
国家試験の模擬試験を行いその結果60%以上取ったものを合格とする。無断欠席・遅刻は-5点とする。					
授業時間外の学習(予習・復習等)について:					
グループごとに次回講義までの課題を設定し、予習を行うこと。					

授業科目	国試対策ゼミナールⅢ		担当者	専任教員	
学科名	作業療法学科	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修
内 容	運動学を中心とした国家試験の過去問を理解するため、過去の問題を検討し理解する。				
到達目標	国家試験の出題問題を理解する。				
教科書:					
	書名	PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学2021			
	著者名				
	出版社	医歯薬出版株式会社			
	書名	PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学2021			
	著者名				
	出版社	医歯薬出版株式会社			
	書名	PT/OT国家試験必修ポイント 基礎OT学2021			
	著者名				
	出版社	医歯薬出版株式会社			
	書名	PT/OT国家試験必修ポイント 障害別OT治療学2021			
	著者名				
	出版社	医歯薬出版株式会社			
参考図書:					
	書名				
	著者名				
	出版社				
留意事項:					
<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する可能性がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。</p>					

授業科目	国試対策ゼミナールⅣ		担当者	専任教員	
学科名	作業療法学科	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修
内 容	過去の国家試験問題を対象に講義を進めて、国家試験の傾向を知る。 過去の国家試験を対象に国家試験を分析し学習を進める。				
到達目標	国家試験の出題問題を理解する。				
授業計画：					
第1回 国家試験過去問の分析①					
第2回 国家試験過去問の分析②					
第3回 国家試験過去問の分析③					
第4回 国家試験模試①					
第5回 国家試験模試①					
第6回 国家試験模試①					
第7回 国家試験模試①の分析					
第8回 国家試験模試①の分析					
第9回 国家試験模試①の分析					
第10回 国家試験模試②					
第11回 国家試験模試②					
第12回 国家試験模試②					
第13回 国家試験模試②の分析					
第14回 3点問題の考え方					
第15回 まとめ					
評価方法：					
卒業判定試験の結果を評価にする。卒業判定試験は国家試験に準ずる問題で行い、280点満点中168点以上を合格とする。					
授業時間外の学習(予習・復習等)について：					
グループごとに次回講義までの課題を設定し、予習を行うこと。					

授業科目	国試対策ゼミナールⅣ		担当者	専任教員	
学科名	作業療法学科	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修
内 容	過去の国家試験問題を対象に講義を進めて、国家試験の傾向を知る。 過去の国家試験を対象に国家試験を分析し学習を進める。				
到達目標	国家試験の出題問題を理解する。				
教科書:					
	書名	PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学2021			
	著者名				
	出版社	医歯薬出版株式会社			
	書名	PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学2021			
	著者名				
	出版社	医歯薬出版株式会社			
	書名	PT/OT国家試験必修ポイント 基礎OT学2021			
	著者名				
	出版社	医歯薬出版株式会社			
	書名	PT/OT国家試験必修ポイント 障害別OT治療学2021			
	著者名				
	出版社	医歯薬出版株式会社			
参考図書:					
	書名				
	著者名				
	出版社				
留意事項:					
<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する可能性がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。</p>					

授業科目	臨床実習 I		担当者	専任教員	<input type="checkbox"/> 実務教員
学科名	作業療法学科	学 年	3年	総単位数	8単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	<p>1、施設での実習を実施する。ただし、新型コロナウイルス感染予防のため、学外での臨床実習を学内実習に切り替え補うことがある。</p> <p>2、教員が提示した実践事例 (paper patient) を基盤に①ICFシートの整理、教員や学生とのディスカッション、テキスト等により理解を深める。②追加する作業療法評価計画と、治療計画を立案し発表する。</p> <p>3、実習の全プロセスにおいて担当教員の指導とフィードバックを受ける。</p> <p>4、教員が、巡回訪問指導を行う。臨床実習指導者と連携し、指導を行う。終了後には報告会を実施する。</p>				
到達目標	<p>1、作業療法士としての知識・技術・臨床推論・態度などの基本的資質を習得。</p> <p>2、教員指導のもと、作業療法実践を経験。</p> <p>3、作業療法評価計画を立案し、その一部を発表。情報の統合と解釈を行い作業療法治療計画を発表。</p> <p>4、担当教員に必要な報告・連絡・相談が出来る。</p>				
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。				
授業計画:					
・ オリエンテーション、事前学習					
・ 実践事例の紹介					
・ 実践事例に対するICFの整理 (個人ワーク)					
・ 実践事例を読んで、わからない評価、プログラムについての学習 (個人ワーク)					
・ 実践事例の治療計画検討 (グループ学習)					
・ 実践事例の追加評価、追加治療プログラムのまとめ (グループワーク)					
・ 実践事例から新たに得られた学習のまとめ (グループワーク)					
・ グループでの報告会					
・ 実践事例報告書まとめ					
・ 最終ディスカッション					
・ 施設実習での取り組み					
・ オリエンテーション、事前学習					
・ 実習開始 施設見学、担当事例紹介					
・ 担当事例初期評価					
・ 担当事例初期評価レポート作成					
・ 担当事例治療計画検討・開始					
・ 担当事例再評価					
・ 担当事例治療経過のまとめ					
・ 担当事例最終評価					
・ ケース会議での担当事例治療報告					
・ 担当事例報告書作成 (学内)					
・ 実習報告、ディスカッション (学内)					

授業科目	臨床実習 I		担当者	専任教員	□実務教員
学科名	作業療法学科	学 年	3年	総単位数	8単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	<p>1、施設での実習を実施する。ただし、新型コロナウイルス感染予防のため、学外での臨床実習を学内実習に切り替え補うことがある。</p> <p>2、教員が提示した実践事例 (paper patient) を基盤に①ICFシートの整理、教員や学生とのディスカッション、テキスト等により理解を深める。②追加する作業療法評価計画と、治療計画を立案し発表する。</p> <p>3、実習の全プロセスにおいて担当教員の指導とフィードバックを受ける。</p> <p>4、教員が、巡回訪問指導を行う。臨床実習指導者と連携し、指導を行う。終了後には報告会を実施する。</p>				
到達目標	<p>1、作業療法士としての知識・技術・臨床推論・態度などの基本的資質を習得。</p> <p>2、教員指導のもと、作業療法実践を経験。</p> <p>3、作業療法評価計画を立案し、その一部を発表。情報の統合と解釈を行い作業療法治療計画を発表。</p> <p>4、担当教員に必要な報告・連絡・相談が出来る。</p>				
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。				
評価方法:					
臨床実習で用いる評価表の、学内実習に適応できる部分を点数化し評価する。施設実習に関しては施設の評点60%、学内発表点40%で評定し、学内実習・施設での実習を合わせた点数を1/2にしたものを評点とする。					
授業時間外の学習(予習・復習等)について:					
<p>1、担当教員の指示に従い、自宅内での学習をすすめること。</p> <p>2、実践事例の理解を深めるために、わからない用語や評価法は自主的に学習を行うこと。</p> <p>3、施設での実習に関しては実習指導者の指導に従い自宅学習を遂行すること。</p>					
教科書:					
書名					
著者名					
出版社					
参考図書:					
書名					
著者名					
出版社					
留意事項:					
臨床実習については、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う臨地での実習中止などにより、学内実習(対面・遠隔を含む)に変更する可能性がある。変更の場合は、講義支援システム(Moodle)などを通じて周知する。					
学内実習の場合は1日8時間とし、1時間の自宅学習を行う。					

授業科目	臨床実習Ⅱ		担当者	専任教員	□実務教員
学科名	作業療法学科	学 年	3年	総単位数	8単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	<p>1、施設での実習を実施する。ただし、新型コロナウイルス感染予防のため、学外での臨床実習を学内実習に切り替え補うことがある。</p> <p>2、教員が提示した実践事例 (paper patient) を基盤に①ICFシートの整理、教員や学生とのディスカッション、テキスト等により理解を深める。②追加する作業療法評価計画と、治療計画を立案し発表する。</p> <p>3、実習の全プロセスにおいて担当教員の指導とフィードバックを受ける。</p> <p>4、教員が、巡回訪問指導を行う。臨床実習指導者と連携し、指導を行う。終了後には報告会を実施する。</p>				
到達目標	<p>教育課程で習得した知識と技術を、臨床実習指導者の指導の下で、作業療法臨床場面において活用し、対象者(児)のニーズにあわせた治療、訓練、練習、援助ができること。また、適切な時期に再評価を行うことができること。</p>				
実務教員による授業	<p>臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。</p>				
<p>授業計画:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリエンテーション、事前学習</li> <li>・ 実習開始 施設見学、担当事例紹介</li> <li>・ 担当事例初期評価</li> <li>・ 担当事例初期評価レポート作成</li> <li>・ 担当事例治療計画検討・開始</li> <li>・ 担当事例再評価</li> <li>・ 担当事例治療経過のまとめ</li> <li>・ 担当事例最終評価</li> <li>・ ケース会議での担当事例治療報告</li> <li>・ 担当事例報告書作成(学内)</li> <li>・ 実習報告、ディスカッション(学内)</li> </ul>					
<p>評価方法:</p> <p>学外評価と学内評価の合計得点で判定する。</p>					
<p>授業時間外の学習(予習・復習等)について:</p> <p>実習指導者に指示を仰ぎ、予習・復習を実施すること。</p>					
<p>教科書:</p> <p>書名</p> <p>著者名</p> <p>出版社</p>					
<p>参考図書:</p> <p>書名</p> <p>著者名</p> <p>出版社</p>					

授業科目	臨床実習Ⅱ		担当者	専任教員	□実務教員
学科名	作業療法学科	学 年	3年	総単位数	8単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	<p>1、施設での実習を実施する。ただし、新型コロナウイルス感染予防のため、学外での臨床実習を学内実習に切り替え補うことがある。</p> <p>2、教員が提示した実践事例 (paper patient) を基盤に①ICFシートの整理、教員や学生とのディスカッション、テキスト等により理解を深める。②追加する作業療法評価計画と、治療計画を立案し発表する。</p> <p>3、実習の全プロセスにおいて担当教員の指導とフィードバックを受ける。</p> <p>4、教員が、巡回訪問指導を行う。臨床実習指導者と連携し、指導を行う。終了後には報告会を実施する。</p>				
到達目標	<p>教育課程で習得した知識と技術を、臨床実習指導者の指導の下で、作業療法臨床場面において活用し、対象者 (児) のニーズにあわせた治療、訓練、練習、援助ができること。また、適切な時期に再評価を行うことができること。</p>				
実務教員による授業	<p>臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。</p>				
<p>留意事項:</p> <p>臨床実習については、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う臨地での実習中止などにより、学内実習 (対面・遠隔を含む) に変更する可能性がある。変更の場合は、講義支援システム (Moodle) などを通じて周知する。</p> <p>学内実習は1日8時間とし、1時間の自宅学習を行う。(合計315時間)</p> <p>学内実習は①～④の手順で行う。①自宅内実習と学内実習を組み合わせて実施する。②教員が提示した実践事例 (paper patient) を基盤に①ICFシートの整理、教員や学生とのディスカッション、テキスト等により理解を深める。③追加する作業療法評価計画と、治療計画を立案し発表する。④実習の全プロセスにおいて担当教員の指導とフィードバックを受ける。</p>					

授業科目	臨床実習Ⅲ		担当者	専任教員	□実務教員
学 科 名	作業療法学科	学 年	3年	総単位数	8単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修
内 容	<p>1、施設での実習を実施する。ただし、新型コロナウイルス感染予防のため、学外での臨床実習を学内実習に切り替え補うことがある。</p> <p>2、教員が提示した実践事例(paper patient)を基盤に①ICFシートの整理、教員や学生とのディスカッション、テキスト等により理解を深める。②追加する作業療法評価計画と、治療計画を立案し発表する。</p> <p>3、実習の全プロセスにおいて担当教員の指導とフィードバックを受ける。</p> <p>4、教員が、巡回訪問指導を行う。臨床実習指導者と連携し、指導を行う。終了後には報告会を実施する。</p>				
到達目標	<p>教育課程で習得した知識と技術を、臨床実習指導者の指導の下で、作業療法臨床場面において活用し、対象者(児)のニーズにあわせた治療、訓練、練習、援助ができること。適切な時期に再評価を行うことができること。実習施設における書類管理や単位管理などの作業療法業務全般を理解する。</p>				
実務教員による授業	<p>臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。</p>				
<p>授業計画：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリエンテーション、事前学習(学内)</li> <li>・ 実習開始 施設見学、担当事例紹介</li> <li>・ 担当事例初期評価</li> <li>・ 担当事例初期評価レポート作成</li> <li>・ 担当事例治療計画検討・開始</li> <li>・ 担当事例再評価</li> <li>・ 担当事例治療経過のまとめ</li> <li>・ 担当事例最終評価</li> <li>・ ケース会議での担当事例治療報告</li> <li>・ 担当事例報告書作成(学内)</li> <li>・ 実習報告、ディスカッション(学内)</li> </ul>					
<p>評価方法：</p> <p>学外評価と学内評価の合計得点で判定する。</p>					
<p>授業時間外の学習(予習・復習等)について：</p> <p>実習指導者に指示を仰ぎ、予習・復習を実施すること。</p>					
<p>教科書：</p> <p>書名</p> <p>著者名</p> <p>出版社</p>					
<p>参考図書：</p> <p>書名</p> <p>著者名</p> <p>出版社</p>					

授業科目	臨床実習Ⅲ		担当者	専任教員	□実務教員
学科名	作業療法学科	学 年	3年	総単位数	8単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修
内 容	<p>1、施設での実習を実施する。ただし、新型コロナウイルス感染予防のため、学外での臨床実習を学内実習に切り替え補うことがある。</p> <p>2、教員が提示した実践事例 (paper patient) を基盤に①ICFシートの整理、教員や学生とのディスカッション、テキスト等により理解を深める。②追加する作業療法評価計画と、治療計画を立案し発表する。</p> <p>3、実習の全プロセスにおいて担当教員の指導とフィードバックを受ける。</p> <p>4、教員が、巡回訪問指導を行う。臨床実習指導者と連携し、指導を行う。終了後には報告会を実施する。</p>				
到達目標	<p>教育課程で習得した知識と技術を、臨床実習指導者の指導の下で、作業療法臨床場面において活用し、対象者(児)のニーズにあわせた治療、訓練、練習、援助ができること。適切な時期に再評価を行うことができること。実習施設における書類管理や単位管理などの作業療法業務全般を理解する。</p>				
実務教員による授業	<p>臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。</p>				
<p>留意事項:</p> <p>臨床実習については、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う臨地での実習中止などにより、学内実習(対面・遠隔を含む)に変更する可能性がある。変更の場合は、講義支援システム(Moodle)などを通じて周知する。</p> <p>学内実習は1日8時間とし、1時間の自宅学習を行う。(合計315時間)</p> <p>学内実習は①～④の手順で行う。①自宅内実習と学内実習を組み合わせ実施する。②教員が提示した実践事例 (paper patient) を基盤に①ICFシートの整理、教員や学生とのディスカッション、テキスト等により理解を深める。③追加する作業療法評価計画と、治療計画を立案し発表する。④実習の全プロセスにおいて担当教員の指導とフィードバックを受ける</p>					